［認知症対応型共同生活介護用］

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年12月1日

## 【評価実施概要】

| | |
|---|---|
| 事業所番号 | 4272200132 |
| 法人名 | 有限会社 グループホーム天意 |
| 事業所名 | グループホーム 天意 |
| 所在地<br>（電話番号） | 長崎県五島市大荒町1310番地12<br>（電 話）0959－75－0177 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 評価機関名 | SEO ㈱福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F | | |
| 訪問調査日 | 平成 20年 10月 6日 | 評価確定日 | 平成 21年 1月 19日 |

## 【情報提供票より】（平成 20年 4月 1日事業所記入）

（1）組織概要

| | | |
|---|---|---|
| 開設年月日 | 平成16年12月1日 | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 9 人 |
| 職員数 | 9 人 | 常勤 4人，非常勤 4人，常勤換算 3人 |

（2）建物概要

| | | |
|---|---|---|
| 建物形態 | 単独 | 新築 |
| 建物構造 | 木造 | |
| | 1 階建ての 1 階 ～ 1 階部分 | |

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 家賃（平均月額） | 12,000 円 | | その他の経費（月額） | 円 |
| 敷 金 | 無 | | | |
| 保証金の有無<br>（入居一時金含む） | 無 | | 有りの場合<br>償却の有無 | 有／無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | 900 円 | | |

（4）利用者の概要（平成 20年 4月 1日現在）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 利用者人数 | 9 名 | | 男性 1 名 | 女性 8 名 | |
| 要介護1 | 3 名 | | 要介護2 | 3 名 | |
| 要介護3 | 2 名 | | 要介護4 | 1 名 | |
| 要介護5 | 0 名 | | 要支援2 | 0 名 | |
| 年齢 | 平均 | 86 歳 | 最低 81 歳 | 最高 92 歳 | |

（5）協力医療機関

| | |
|---|---|
| 協力医療機関名 | 虎島医院、大坪歯科医院、佐々木歯科医院 |

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市街地から少し離れた、周囲には畑や林が点在する環境にあり、広い敷地内には宅老所が隣接され、現在新しく有料老人ホームが建設中である。今年から敷地内に家庭菜園が作られており、ご利用者は職員と一緒に季節の野菜の収穫を楽しまれている。施設長が考えた「笑顔と元気と温かい介護で、ほっとする家庭」の理念の元、ご利用者の生活背景や生活習慣を踏まえて更に環境を整える働きかけを続けながら、地域の中でご本人の持つ力を発揮し、ご家族との交流を保ちながらその人らしい暮らしが実現できるよう取り組みを続けられている。隣接の宅老所のご利用者との交流も盛んで、日常的に宅老所のご利用者がホームへ遊びに来られる姿が見られる。ホームを設立してから4年目を迎え、散歩中のご利用者に地域の方が自然に会話を交わされるなど、ホームの存在が自然に地域の中に受け入れられている様子が伺える。

## 【重点項目への取り組み状況】

| | |
|---|---|
| 重点項目① | **前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）**<br>昨年より、①定期的な運営推進会議の開催の実現②年4回“天意新聞”を送付してのご家族への定期報告の実施③ご本人や家族の意向を取り入れたより具体的な介護計画の作成等、前回の外部評価以降、職員全員で取り組んできた。<br>**今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）**<br>以前は前任の管理者が主となって自己評価に取り組んでいたが、今回の自己評価から、職員全員が各項目の評価に取り組み、意見を出し合いながら計画作成担当者がまとめた。職員全員自己評価に取り組んだことで、職員一人一人が日々のケアについて振り返り、ホーム全体のケアの質の向上について考える機会となった。また、ホームが目指す方向性を再認識することができ、職員のケアに対する自信につながっている。 |
| 重点項目② | **運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）**<br>ご家族、町内会長、市職員の参加を頂き2ヶ月毎に定期開催しホームの活動状況や行事報告、前回外部評価結果の報告を行っている。“天意新聞”の回覧についてご意見を頂いたり、地域への行事参加について助言を頂いたりしている。施設長が介護保険の更新手続き時や、定期的に“天意新聞”や行事の案内を持って月に1回は必ず市窓口に伺い、市担当者へホームの運営や系列施設の設立について相談したり、助言を頂いている。市担当者が運営推進会議に出席するようになったことで市担当者との関係も円滑になった。 |
| 重点項目③ | **家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）**<br>ご家族の面会時には職員から日々の暮らしや健康状態等お伝えし、遠方の方には月に1回施設長が近況報告の手紙を書いて、請求書と同封してお送りしており、3ヶ月に1回“天意新聞”も合わせて送付している。幅広くご意見を頂く為にホーム内にご意見箱の設置したり、介護計画を自宅にお持ちした時や面会時に個別に話をする時間を設け「何かお困りの事はないですか」と繰り返し尋ねている。普段からご家族との関係をより密接にし、何でも話せる雰囲気作りに更に取り組みたいと考えている。 |
| 重点項目④ | **日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）**<br>アイアンマン大会の応援や福江祭りの見物等を楽しみに出掛けている。ホームの敬老会には地域住民や小学生の出し物の披露があり、地域の方の発表の場で定着し参加者数も年々増えている。ホーム周辺を散歩する際には地域の方と団らんを楽しむ姿も見られており、散歩と合わせて職員と一緒に空き缶やゴミ拾いを行う等、地域の一員としての活動にも取り組んでいる。 |

# 2.　評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ．理念に基づく運営** | | | | | |
| 1．理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念<br><br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 職員が元気な笑顔で接することで、ご利用者へ「地域の中でご利用者が持つ力を発揮し、家庭と同じようにゆったりと過ごせる生活を続けていただきたい」というホームの願いを届けたいとの思いから、平成16年12月の開設時に施設長が現在の理念を作り上げた。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み<br><br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 新任職員の入職時に、施設長が直接理念について話をすることで理念への理解が深められるようにしている。平成19年5月から申し送り時に理念を唱和する時間を設けており、職員が日々ケアの在り方を再認識できるよう取り組んでいる。月に1回以上職員会議を行いケアの場面を振り返ることで、理念を実践する為にはどうすれば良いのかを考えると共に、ご利用者の行動を見て自分達のケアを評価している。また、毎日の申し送り時にケアの場面で気づいた事を伝え合い、改善に努めている。 | ○ | 8月末に前任の計画作成担当者の退職に伴い新任職員の入職があった。新しい体制のもと、さらに理念の理解が深められ、理念に基づいたケアの実践に向けて取り組まれていくことに期待していきたい。 |
| 2．地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい<br><br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | アイアンマン大会の応援、福江祭りの見物等、地域の行事を楽しみに出かけている。ホームの敬老会には地域住民や小学生の出し物の披露があり、地域の方の発表の場で定着し参加者数も年々増えている。ホーム周辺の散歩時は近隣の方と挨拶を交わし団らんを楽しむ一方、ご利用者と職員でゴミ拾いを行っており、ご利用者・職員ともに地域の一員としての活動に取り組んでいる。今年から中学校と職業体験受入れの提携も交わしている。 | ○ | 来年は地域の方を招いてのそうめん流しやホーム主催の運動会の開催を検討している。ご利用者や職員が地域活動に参加するだけでなく、今後さらに気軽に地域の方がホームへ来ていただく機会を増やし、地域との交流が深められる取り組みに期待したい。 |
| 3．理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用<br><br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 施設長から職員へ項目の説明を行い、自己評価をする事によって日頃実施しているケアの意味に気付き理解につなげられることを伝えられ、各職員が管理者に自分の意見や評価を提出し、それを元に管理者がまとめた。職員一人一人が評価に取り組むことで外部評価の意義を認識し、日々のケアを振り返る機会となっている。 | ○ | 今回の自己評価をまとめた後に管理者が退職し、新しい職員体制となったことで、職員全員が主体となって改善に取り組むこととなった。今後も職員全員で自己評価に取り組むことが定着し、職員一人一人の日々のケアの中で自己評価が活されることで、ホーム全体のケアの質の向上につながっていくことを期待したい。 |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み<br><br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ご家族、町内会長、市職員の参加を頂き2ヶ月毎に開催し、ホームの活動状況や行事報告、前回外部評価結果の報告を行っている。定期的に開催することで、市担当者や町内活動との連携も図りやすくなった。次回の開催日は月初めに市の担当者と相談し日程を決めている。施設長が出席者へ案内状を持って行き、ご家族へは郵送や電話、来訪時に声をかけることで出席をお願いしている。 | ○ | 年間の会議計画を立てたり、ホームの様子を写した写真を活用する等出席者がより主体的に会議に取り組めるよう工夫がなされ、会議の場がホーム運営により生かされる取り組みとなるよう期待したい。また、ご利用者の出席の実現に取り組んだり、会議録としての記録方法を工夫して検討内容の周知が図られることで、会議の内容が日々のホーム運営に活かされることを期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携<br><br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市担当者が運営推進会議に出席するようになったことで、市担当者との関係も円滑になった。施設長が介護保険の更新手続きや、天意新聞を届けたり、ホームの行事開催時には行事案内を持って月に1回は必ず市窓口に伺っている。また、ホームの運営や系列施設の設立にあたっての相談を行っている。 | | |
| ４．理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告<br><br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 近隣在住のご家族が多く、ご家族の面会時や入居料の支払いに来られた時に、ご利用者の近況を口頭でお伝えするようにしている。遠方在住のご家族には、請求書と一緒に施設長が書いた手紙をお送りして月に1回は近況報告を行っている。3ヶ月に一回天意新聞を発行しているが、紙面にはご利用者の写真を多く取り込まれており、アルバムのように綴って思い出として残せるように工夫している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br><br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご意見箱を玄関横に設置しているが、投書でのご意見を頂くことはない。介護計画を自宅にお持ちした時やご家族の面会時、七夕や誕生会など行事の時に個別に話をする機会を設け、ご利用者を介して話しやすい雰囲気作りに努めながら「何かお困りの事はないですか」と繰り返し尋ねることで、ご意見を頂けるよう働きかけている。入居時に公的な相談窓口や第三者委員について説明し、ホーム内に掲示すると共にご意見を頂いた時は運営推進会議の議題に挙げ、対応策等助言を受けるようにしている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br><br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 定期的な異動はないが、適性等に応じながら法人内異動は行われている。馴染みの関係を大切にし職員の離職を防ぐ為に、休みの希望に極力応じたり求人を出して人員体制を増やす努力を続けている。職員の悩みや相談は施設長が受け「辛い事は6人で分け合い、嬉しい事も独り占めしないで皆で一緒に喜んで」と、1人で抱え込まず仲間と共に進めば乗り越えられることを伝え、励まし合っている。年に数回勉強会の後に食事会を行い、親睦の場を設けている。新任職員には施設長が一緒に勤務し、ケアのポイントや情報提供を行い十分指導を行っている。 | | |
| ５．人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修は、適性を考えて施設長が人選し、市の研修会等へ出来る限り全員が参加できるように配慮されている。月1、2回の会議の時に合わせて外部研修の伝達を行い資料を提示・回覧したり、施設長がテーマを設け定期的に内部研修を行ったりしている。資格取得の為に必要な勉強方法等について、施設長から職員に伝えているが、個別の経験・適正等を考慮した育成計画の作成までは至っていない。 | ○ | 職員個別に学習意向があるが、個別の育成計画の作成には至っていない状況。職員の個々の学習意向に対して計画的に取り組む仕組みを作ることで、より充実した職員の自己研鑽の場が築かれることに期待したい。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br><br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 五島市グループホーム連絡協議会に施設長が参加し、介護支援専門員連絡協議会の事例検討会や、合同の研修会に施設長と管理者が参加している。施設長が近隣のホームと電話で情報交換をしたり日常的な相談を行うことで交流を深めているが、職員同士の交流の機会や相互訪問・見学等は行われていない。 | ○ | 今後は近隣のホームとの定期的な交流や見学を行ったり、近隣のホームの職員も参加できる研修を開催したいと考えられており、より積極的な交流・連携作りへの取り組みに期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br><br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前に、施設長が自宅にお伺いしたり、病院へ様子を見に行くようにしている。ご家族とお話ししながら、ご本人とご家族が一緒に何度か見学に来られる機会を設け、ホームの雰囲気に慣れながらご本人ご家族ともに納得・安心して入居して頂けるよう働きかけている。入居後も、行きつけにしていた店が利用できるよう配慮したり、気が紛れるよう声をかけたり、ご希望で「兄ちゃん」とお呼びすることでホームに馴染んで頂けるよう配慮している。 | | |
| 2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br><br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 日々の会話の中で生活の知恵や風習を教えて頂いたり、酢物や混ぜ御飯のコツを伝授して頂く事もある。ご利用者からユーモア溢れる会話で楽しませて頂いたり「頑張らんといかんよ、若い時は色々ある、自分もそうだった」と励ましを頂く事もあり、職員も明日も頑張ろうという気持ちになっている。職員への「ありがとう」の感謝の言葉や、夜勤明けに玄関先で手を振って「明日も待ってるよ」と声をかけて頂いたり、自然にご利用者が職員を家族のように接して下さることで、共に支えあう関係が出来ている。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 1．一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握<br><br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ゆっくりと話が出来る雰囲気を作りながら居室で一緒に話しをする中で、ご利用者の表情や会話の中からご利用の意向を確認し、職員とともに活動に取り組むようにしている。職員が野菜作りに取り組む姿を見て、「もう出来ない」と言われていた方が野菜作りに参加される等、望む暮らしや意向が実現できるように各職員で努力している。 | | |
| 2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br><br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している | 以前は、管理者が各ご利用者の担当職員に、ご利用者やご家族との話しの中で気付いた事等を聞き取り、管理者が主となってアセスメントを取り計画を作成していた。9月に管理者が変更になり、今は各ご利用者の担当職員がアセスメントを取り、管理者と担当職員で話し合いながら管理者が計画を作成している。ご利用者の状況や思い、習慣を踏まえて『その人らしく暮らし続ける』為に、具体的な課題・目標を掲げ、『地域で暮らす』という視点が盛り込まれた計画となっている。 | ○ | 以前に比べ、職員一人ひとりの中で計画作成に携わっていこうという気持ちが高まっている。今後は管理者・担当職員だけではなく、職員全員で話し合いながら、ご利用者の『その人らしく暮らし続ける』為の具体的な計画の作成に取り組んでいきたいと考えられており、今後の取り組みに期待したい。 |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br><br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 日々の関わりの中で、随時計画の見直しを行い、ご利用者・家族の要望や状況の変化が生じた場合や、新たな気付きや意見があった場合等、臨機応変に計画の見直しを行っている。月1、2回の会議の中で、要望や状態に変化がないご利用者についても毎月検討を行っている。 | ○ | 随時計画の見直しは行っているが、計画の変更までは出来ていないご利用者もおられる。変更が必要なご利用者には随時計画の変更ができるように取り組んでいきたいと考えられており、今後の取り組みに期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| ３．多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 施設長が看護師で入居者の健康状態について協力医療機関へ相談したり、必要に応じて協力医療機関から往診の依頼ができ、24時間の医療連携体制が保たれており、家族協力が難しい時は職員が通院介助を行ったり、入院時は病院と情報共有を図りながら早期退院に繋げる支援を行っている。回忌法要の送迎や馴染みの美容室、洋品店、スーパーへ買い物にお連れしたり、自宅に居る時と変わらない楽しみのある暮らしが送られるよう支援している。隣接の宅老所と合同で、屋外での食事会を行うこともある。 | | |
| ４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時に希望の医療機関をお聞きし、以前からのかかりつけ医で受療して頂いたり、納得の上協力医療機関に替わられる方もおられる。職員が通院介助を行い予め医師に入居者の状況報告をしたり、かかりつけ医に何時でも相談できる。体調に変化がないご利用者についてもご家族が面会に来られた時に報告している。ご家族が受診介助される時も職員が同行するようにしており、結果をお聞きして把握し適切な医療が受けられるよう支援している。 | ○ | 体調に変化がないご利用者について、面会に来られるご家族には報告できているが、面会に来られないご家族については、ホームからの報告が出来ておらず、今後は定期的に報告を行うように取り組んでいきたいと考えられており、今後の取り組みに期待したい。 |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居時に、ホームで重度化した時や看取りの方針について施設長が説明し、ご家族に同意を頂いている。常に医療的なケアが必要になったり、ホームでの入浴が困難になった時等、ご利用者に変容があった場合は、その都度家族と話し合いながら今後の対応を決めている。急変時の対応については、全ご利用者のご家族と話し合っており、方針を決めている。 | ○ | 医療機関との24時間の連携体制が保たれておりホームでの終末期のケアは可能であるが、現在は、“終末期のケアは医療機関で”とのホームの方針がある。ご本人・ご家族の希望があればホームでの対応を検討するようにしているが、管理者を始め職員には「終末期のケアを最期までさせて頂きたい」との気持ちがあられる。ホーム内で話し合いを持ち、ホームでの看取りの方針の見直しについて、再度検討が行われることを期待していきたい。 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| １．その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| （１）一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | ご利用者が馴染まれている為、ニックネームでお呼びすることもあるが、ご本人に確認して、一番ご本人が好まれる呼び方で対応し配慮している。職員の言葉遣いが気になる時にはお互いに注意し合っており、常にご利用者に尊敬の念を持って接することができている。排泄介助・誘導時にはご利用者の自尊心・羞恥心に配慮し、さりげなく行うように心がけており、個人情報が書かれたメモ紙等は最終的に必ず焼却処分する等、個人情報の漏洩にも日ごろから気を付けながら取り組んでいる。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 朝食後のゆっくりした時間に「何をしたいですか」と伺い、ご希望やペースに合わせてドライブやホーム周辺の散歩等に出掛けたりしている。ご希望を伝えるのが難しいご利用者も、職員の言葉掛けに対する表情や反応を注意深く観察し、希望や好みを把握するようにしているが、自らご意向を伝えるのが難しいご利用者については活動に参加する機会が少なくなっている。 | ○ | 自らご意向を伝えたり、活動に参加するのが難しいご利用者についても、隣接の宅老所と連携を取りながらホーム近辺で日向ぼっこを行う等、活動内容を検討しながら支援方法を工夫し、その人らしい楽しみのある暮らしが日々実現できるよう、今後の取り組みを期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| （2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br><br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立決めや味見、お茶入れやテーブル拭き、食事が出来上がった時に他のご利用者へお知らせ頂いたり、食後の下膳等、それぞれのご利用者のペースで取り組まれている。職員も周辺で採れたつわや菜園で採れた旬の食材を食事に採り入れたり、ご利用者と一緒の食卓で必要な介助を行いながら団らんを楽しむ等、楽しい食事の雰囲気作りに努めている。外食に出かけたり、戸外のウッドデッキでお茶や昼食を摂る等、日頃から食事が楽しめるように工夫をしている。 | ○ | 一時、食事量や献立に課題がある時期があったが、今は職員全員で話し合いを行い改善できている。今後は、地域の方を招いてのそうめん流しを開催する等、更に食事を楽しめる支援を考えており、今後の取り組みに期待したい。 |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br><br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴時間帯や回数をある程度決めているが、希望に合わせて対応可能である。ゆっくり入りたい方は16時頃にしたり、体調に応じて湯加減や順番に配慮し、菖蒲湯・ゆず湯も楽しめるよう工夫している。以前入浴介助を嫌がられたご利用者の「人の世話にはなりたくない」という思いを知り、その思いを大事にしながら支援している。他のご利用者についても、必要な時はご家族の協力を頂きながら、ご利用者が安心して入浴できるように、支援に工夫をしている。 | | |
| （3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br><br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 今年からホームの敷地内に菜園作りを始め、ご利用者に季節の野菜の収穫を楽しんで頂いている。炊事や洗濯たたみ等好きな家事を手伝って頂いたり、新聞紙でのごみ袋作りや散歩時の空き缶広いなどの役割を持っていただき、それぞれのご利用者の得意な力が発揮できるように支援している。職員と一緒に庭の花作りに取り組んだり、近隣の花を見に散歩に出かける等、生活歴や趣味・得意なことを活かして暮らせるように積極的に取り組んでいる。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 入居前からの行きつけの美容室やスーパーにお買い物、お墓参りに行ったり今迄の生活の継続として、外出が出来るよう支援を続けている。職員の小学生の子供の音楽祭や運動会に一緒に行ったり、職員の子供がホームに遊びに来ることもある。外出が難しいご利用者についても、戸外のウッドデッキでお茶や昼食を摂る等、気分転換や五感刺激のために戸外で過ごして頂く機会を積極的に作っている。 | ○ | 現在、町内のゲートボール場の見学外出を休止しているが、職員の外出支援体制を整え、屋外で過ごしやすい季節が来たら見学外出を再開させたいと考えている。地域との交流を含め、今後の取り組みに期待したい。 |
| （4）安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 21:00～6:00迄は防犯上の施錠を行っている以外は、玄関等自由に出入りできるようになっている。現在一人で外出しようとされるご利用者はおられず、ご利用者をさりげなく見守りを行うことで支援している。もしも一人で外出された際も、ご近所の方に見守りや連絡の協力を依頼しており、鍵をかけないケアの協力体制は保たれている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策<br><br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 火災を想定して年に2回、入居者、全職員、消防署と避難訓練を行い、実際に消火器を使った消火訓練も行っている。災害時にホーム外へ避難したご利用者の見守りは、隣保班の方に協力依頼を行っている。ホームの避難訓練の時には地域の方にも参加をお願いしているが、参加には至っていない。災害に備えた備品は今のところ特に準備はしていない。 | ○ | 地域の方へ避難訓練への参加のお願いは行っているが参加には至っておらず、参加いただけるよう働きかけについても工夫されることを期待したい。備蓄品についても想定される災害を踏まえ、必要な物・量についてホーム内で話し合いを持ち、今後の具体的な取り組みにつながっていく事を期待していきたい。 |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| （5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ご利用者の好みに合わせて肉を魚にする等の食材の変更や、盛り付けを工夫したり飲み物の種類を選べるようにしている。食事摂取量・飲水量を把握・記録しており、定期的な体重測定・血液検査結果に基づいて医師の助言に従い対応し、カロリーの過不足や栄養の偏りがないよう心がけている。経管栄養のご利用者にも対応しており、経口摂取の能力が維持できるように、日に一回プリンやヨーグルトを食べるように支援する等、ご利用者の状態に応じた食事の提供を行っている。 | | |
| 2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり<br>（1）居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 明るい陽射しはカーテンで調節され、居間には季節の草花を飾ったり、冬はコタツを居間に置き心安らぐ雰囲気を出している。テレビや音楽の音が大きすぎて不快に感じないように調節したり、窓を開け換気に努めている。ホームの中心に食堂があり、料理の匂いや包丁で刻む音が自然にホームの中にあることで、家庭の中の寛ぎの空間になっている。トイレのドアの開閉が難しいご利用者の為にトイレのドアを二重のカーテンに変更する等配慮しているが、掃除を強化することでにおいには十分気を付けられており、清々しく過ごせるよう配慮している。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br><br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居前に大切にされていたタンスやぬいぐるみ等、馴染みの物を持って来て頂き家族と一緒に、使いやすく居心地良く過ごせるように模様替えをして頂いている。持ち込みの品があまり多くない方は、ホームで職員と一緒に作った手作りの作品を飾る等、居室の家庭的な雰囲気作りにご利用者と職員とで一緒に取り組んでいる。入居後も、馴染みの物を持って来て頂くようご家族に声を掛けるようにしている。 | | |